

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493700023
法人名	医療法人社団平平會
事業所名	グループホーム ふあいと青葉
訪問調査日	平成22年8月30日
評価確定日	平成22年9月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700023	事業の開始年月日	平成18年7月1日	
		指定年月日	平成18年7月1日	
法人名	医療法人社団 平平會			
事業所名	ふあいと青葉			
所在地	(〒227-0036) 横浜市青葉区奈良町2467-5			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年8月9日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月16日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開所以来丸4年を経過したが、大型施設ではなく少人数のグループホームらしさを最大限に発揮した日常生活を送っていただこうと腐心している。それぞれの入居者ができることの発見に努め、今できることの維持を支援し続けている。職員が忙しく働くのではなく、毎日の日課にできるだけ入居者が主体的に関わり、入居者のペースに合わせて職員が側面からの支援をする体制を心がけている。男性も女性も入居者はできる事への役割と張り合いを持って過ごしているようである。殆ど入居者は夜眠る頃に各居室に戻り、日中は共用のリビングで過ごしているのも孤立感を少なくしているのではないだろうか。また1ヶ月に1度は全入居者が近隣の町へ外出し、買い物やレストランでの外食をして季節感を味わったり気分転換を図れる機会を作っている。この2年間ほど、退職する職員がなく、およそ1/3の職員が勤続3年以上であり、入居者との親密度が増してきていることは喜ばしいことである。また、ホーム建設前は地元住民からの反対の声が大きかったという経緯があるが自治会シルバークラブの厚意により公園でのラジオ体操参加が2年以上継続している。入居者にとっては朝の日課のひとつとして定着し、運動や気分転換の絶好の機会となっている。少しずつではあるが、地域の方々を受け容れられていることの表れと感謝している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年8月30日	評価機関 評価決定日	平成22年9月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①本ホームの経営母体は、医療法人社団 平平會であり、有料老人ホームを手始めに、平成16年からグループホームを展開し、本ホームは4番目に設立され、今年開所した2か所を含め8事業所を運営している。本ホームは、こどもの国駅からバス5分、徒歩10分のやや交通の不便な所に位置しているが、その分静かな住宅地の一角にあり、環境は良い。理念のキーワードである「普通の生活をしていただく」を実践し、利用者の残存機能を生かすため、手間がかかっても、利用者自身に仕事の役割分担をして頂き、職員は、できるだけ手伝わないように見守っている。これにより、利用者の自主性が生じ、例えば、料理の手伝いは、利用者の希望者が多く当番制にしているほどである。外出も多く、利用者が、全般的に活動的な為、ホーム全体の雰囲気明るく感じられる。</p> <p>②地域との関係は、開所以来4年経ち徐々に交流を深めており、地元自治会長、シルバークラブ会長、包括支援センター職員、家族から構成される運営推進会議は、年4回定例で行われている。真夏・真冬を除いて毎朝シルバークラブ主催で近くの公園で行われているラジオ体操に、地域のボランティアの支援を得て参加している。また夏祭りへの参加、地元自治会館で定期的に行われる火曜サロンにも参加している。新たに、地域への貢献を目指して、昨年12月に認可を得たデイサービスもこの7月から実現されており、地域との交流が今後、更に深まることが期待される。</p> <p>③ケアについては、この法人独自の、アセスメント・生活援助計画を使用し、月一回のカンファレンスで、職員間で検討し見直しを図っている。開所以来職員の異動が少なく、職員が定着していることから、利用者との親近感も深まっている。本ホームの方針として、職員は定期的に担当ユニットを変更しており、従って職員は利用者全員18名全ての方に係わることになる。この方式が、職員をユニットに固定する方式よりも、利用者・職員どちらにもリフレッシュ効果を生み出している。また、外食も利用者3人単位の少人数で行い、楽しく会話が進む工夫をしており、外出も個別対応を出来るだけ心がけている。このようなきめ細やかな対応が、利用者との信頼感を深めることに役立っている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ふあいと青葉
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣町内からの入居者が多いが、のみならず全入居者が地域の一住民であることを職員一同常に念頭において業務にあたっている。ホーム前のゴミ集積所の清掃を入居者と共に行うことも実践している。	「普通の生活をする」というホームの理念を実現するため、ホーム長は、職員になるだけ「何でも手を差し伸べることはないよう」促している。時間がかかっても、利用者ができることはして頂きたいとの思いから、利用者には役割分担を持って頂いている。このことが、利用者の生活に張りを持たせている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として可能な限り、行事に参加したいと考えている。シルバークラブの厚意により毎朝近くの公園でラジオ体操参加を継続している。特にその送迎ボランティアの方々とは親密さが増してきている。	自治会の一員として可能な限り、行事に参加している。毎朝8:30より行われるラジオ体操への参加、夏祭りに参加、2週間毎に行われる火曜サロンの歌会への参加等徐々に、地域との付き合いは、活発化している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型の通所介護を始め、近隣地域の利用者・家族を支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施している運営推進会議での意見交換を有意義に考えている。今年よりシルバークラブ会長が委員に加わり、同世代者としての意見が貴重なものと考えている。	年間4回、定例開催をしており、メンバーは、自治会長、シルバークラブ会長、家族、包括支援センター等で、固定化した方々から有意義な意見交換を行っている。話題としては、地域防災関係が多く安全に配慮していることが伺える。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に近隣の奈良地域ケアプラザとは連絡を取り合い指導を受ける機会を作っている。今後も包括支援センターを通して行政と連携し、サービスの向上を図っていききたい。	奈良地域ケアプラザが、すぐ近くの徒歩圏内にあり、その中にある包括支援センターとは緊密な連携をとっており、今回のデイサービス業務の開始にあたって、包括センターを通して一般の方々に紹介をしてもらっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を学び、入居者の安全を重視しながら拘束をしない支援に努めている。構造上、玄関はオートロックであるが、庭の水撒き・洗濯干しなど、職員の見守りの上で自由に入出りでき、閉塞感がないよう配慮している。	現在は、身体拘束の必要性がないため、実感がないが、今後、利用者の重度化が予想され、職員ともども課題とする必要がある。構造上、玄関は、オートロックであるが、庭の水撒き、洗濯干し等、職員の見守りの上で、自由に入出りでき、閉塞感がないよう配慮している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で虐待防止について学ぶ機会を設け、職員の不用意な指示・言動が虐待に当たらないよう、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に保佐人を活用している方がいるので現実的な問題として、制度についての理解を深めていかねばならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書を通して詳しく説明を行い、疑問を残さず入居していただく努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は出来る限り利用者と個別にコミュニケーションをとるように努め、そこで得た意見を尊重している。ご家族とは面会時や電話等で意見・要望を遠慮なく表明していただける関係作りを心がけている。暮らしぶり・変化を正直に伝え、支援の工夫を報告して、安心感を持っていただくよう努めている。	家族の縁の薄い方が多いが、近隣の利用者5名のご家族は、頻繁に来訪され、その際には、意見・要望を遠慮なく表明して頂ける関係作りを心がけている。暮らしぶり、変化を家族には、正直に伝え、支援の工夫を報告して、安心感を持って頂くよう努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員会議の中で、職員の意見・提案を検討し合い、働きやすい職場改善に努めている。	毎月第一火曜日の午前中に、出来るだけ多くの職員・パートの参加を得て、職員会議を開いている。職員のほとんどが長く定着している為、遠慮なく意見を出し合え、忌憚のない意見交換を行い、働きやすい職場改善に努めている。又毎月1回の系列8事業所のホーム長会議も有意義に利用している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の状態変化に合わせ、本年8月よりC勤(10時～19時)を新たに設け、入居者へのサービス向上と職員の連携に有効な体制の実践を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては期間を定めて現場での研修や法人間での教育研修を行い、介護の質の向上を図る体制ができている。また隔月に一度法人主催の研修を実施し、介護技術の向上に努めている。更に他機関の研修にも積極的な受講を勧め、士気高揚に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会に属し、他ホームとの交換研修を実施している。交換研修では視野の拡大、自身の振り返りができ、有意義な機会となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者宅を訪問してお話を聴く機会を作っている。更にできる限りホームを見学していただき、安心感を得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者宅への訪問・ホームの見学・電話相談など納得がいくまで相談を受け容れる配慮をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状況を客観的・長期的に把握し、ご本人にとって最善の生活ができるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常業務で常に留意していることは、職員は介護するのではなく、入居者と共に生活する視点を保つこととしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を常に尊重した支援に努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から入居された方もあり、以前のなじみの場への再訪は困難な場合もあるが、知人の訪問は積極的に歓迎している。なじみの方との電話交流も継続する支援をしている。	遠方からの利用者もおり、以前の馴染みの場への再訪は、困難な場合もあるが、知人が来訪された場合は、積極的に歓迎している。馴染みの方との電話交流をしている利用者には、継続の支援をしており、少なくとも2カ月一度は、電話を促している。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ウマが合う・合わないの関係が見え隠れするが、折り合っでの共同生活の環境作りに職員が日々工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養型病院に入院し、退居した入居者がいるが時折職員が見舞うなど関係を継続した。その後死去されたが入居者と共に仏前にお参りするなど今も関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日々、できる限り個別にコミュニケーションをする努力をし、各人の意向を生活に反映させる工夫をしている。共同生活でのストレス解消を、各人に合う方法で解決する努力を続けている。	個別にコミュニケーションをとるよう努め、各利用者の意向を生活に反映させる工夫をして、共同生活でのストレス解消に配慮している。例えば特定の毛染めの要望があれば、そのためだけの買い物に行ったりして意向に応じている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談で必要な生活歴等は把握している。入居後は職員と関係を深める中で更なる情報を得る努力をしている。職員との関係作りから得た情報は連絡ノートや申し送りで、情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで情報の共有化・ケアの統一に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者を深く観察し、家族の意向に沿った具体的・現実的な介護計画の作成を心がけている。職員会議での各職員の提案を吟味し、柔軟な介護計画となるよう努めている。	利用者を深く観察するよう努め、ご家族の意向に沿う生活援助計画の作成を心がけている。また、職員会議に出された全職員の提案を吟味し、反映するよう、柔軟に現実に応じた生活援助計画の作成に努めている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録・連絡ノート・申し送り等で情報の共有に努め、介護計画への導入・実践に活かしている。些細な状態変化でも見逃さないよう職員の観察力強化を課題としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前の相談の段階から、行政や他事業所の利用を紹介しながら最善の支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のケアプラザ・地区センターの行事には地域住民の一員として参加し、入居者の社会性の維持を図っている。近隣の交番に、必要時に捜索など協力していただけるよう依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医師による週1回の往診、週に1度の看護師の訪問で入居者の医療面の支援が継続的にできている。主治医の専門外の急病の場合は、家族と連絡をとりながら、通院介助にあたっている。	法人内の橋本クリニックによる週一回の往診を行っている。またパートの職員に看護師がおり、利用者の医療面の支援を行っている。近隣の緑協和病院とも提携しており、急病の対応もできる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は看護師が業務に当たり、入居者の健康管理にあっている。また法人内有料ホームに常駐している看護師は携帯電話を24時間携帯し、いつでも相談に応えられる体制で、入居者・介護職員共に安心出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を取り合い、病状に応じてホーム帰居の対応に心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、医療加算と終末期医療に関する説明・同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において、医師・ホーム・家族・ご本人の意思と方針の共有を図っていく。	入居契約時に、医療加算と終末期医療に関する説明・同意書を交わしている。現在は、まだ利用者が、お元気で現実感がないが、今後の重度化に備え、職員も研修などを通して、準備し、共通認識を育む必要がある。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時の応急手当・初期対応についてはマニュアルを作成し、勉強会を実施している。法人の研修会でも実践訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの災害時の避難訓練を定期的実施し、入居者の安全確保の方法を身につける努力をしている。地域住民との連携についても、運営推進会議等で話し合っている。	年2回（3月・9月）に消防訓練をしている。これとは別に、ホーム独自に定期的に自主避難訓練を行っている。生活排水用としてベランダに水の入ったタンクを1・2回1個ずつ用意している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に年長者に対する言葉遣いをするよう努め、誘導が必要な場合にも指示的な言動を避けることを職員に徹底している。記録には個人情報配慮してイニシャルで記すことにしている。	常に年長者に対する言葉遣いをするよう職員一同が、努めており、呼びかけは名字で、「さん」づけで行っている。又指示的な言動を避ける事を職員徹底している。記録には、個人情報配慮し、イニシャルで記すことにしている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意向を優先させるのではなく、入居者自身の意思表示を気長に待つ支援に留意している。また、できる限り職員は個別の関わりの機会を作り率直な意思表示を引き出す努力をしている。個別に対応することで得られた情報を職員が共有化して、余暇活動等に役立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に留意し、各人のペースを尊重した暮らしに努めている。現在は各人の日課が自然に出来上がり、家庭的な雰囲気がかもし出されている。共同生活としての全体性と個人の自由さのバランスの取り方が課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用し、入居者の好みに合わせて整容している。髪染め希望者には職員が支援して定期的に染めたり、また日常的に化粧する入居者が現れ、生活意欲の向上が好ましいことと思われる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景が見られており、入居者はほぼ全員調理に参加、張り合いをもって見受けられる。男性入居者も自発的に配膳や片付けに参加している。平日の献立・食材は業者から取り寄せているが、土・日は入居者の好みに合わせ、ホームで献立を作り入居者と共に出しをしている。職員は入居者と共にも同じものを食べている。	毎日活発な調理風景が見られており、利用者は、全員調理に参加、張り合いを持っているように見受けられる。平日の献立・食材は、業者から毎日配送されているが、土・日の昼食は、利用者の好みでホームで献立を作り、利用者と共に食材の買い出しをしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれの病状に応じ、食べる分量や糖分摂取を加減するなど栄養摂取に留意している。食事量・水分摂取量は食事毎に毎日記録し状態観察している。月に1度は体重測定をし、低栄養や脱水に陥らないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態に応じた口腔ケアを実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ・パットの使用による負担が最小になる工夫や、排泄パターンを見極め、むやみな声かけをしないよう工夫をしている。車椅子使用の入居者も立位のリハビリを兼ね、トイレでの排泄を支援している。	排泄・入浴・睡眠が一緒になった各人の記録票があり、排せつのパターンを見極め、トイレへの誘導を行っている。その際、無遠慮な声かけはしないような配慮をしている。車いす利用の利用者にも立位のリハビリを兼ね、トイレでの排泄を支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便の確認をし、便秘がちな入居者には水分摂取や運動を促し、予防に努めている。また個々に応じて医師の指示のもと下剤を使用し、便秘解消に努めている。便秘がちな入居者にはセンナ茶をすすめ、効果がみられている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	おおむね1日おきのペースで体調に応じて入浴を実施している。季節に応じて入浴剤や菖蒲湯等、楽しい入浴を心がけている。	一日おきのペースで体調に応じて入浴またはシャワー浴を実施している。季節感を出すため、5月の菖蒲湯、12月のゆず湯、冬場には温泉の入浴剤等の使用をする等、楽しく入浴して頂けるよう工夫を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの習慣や体調を尊重して安眠できるように努めている。日中は散歩・体操・家事活動で身体を動かすことで、夜間の安眠を促す努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方箋・説明書をファイルして全員が把握できるようにしてある。薬の変更の際にも理由等を連絡ノートに記入し、申し送りの際にも伝えて職員全員が把握・状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴を理解し、昔取った杵柄を活かし、役割や娯楽に取り入れる工夫をしている。家庭菜園・カラオケ・囲碁将棋・手芸等趣味活動が広がりつつある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に応じての散歩・食料品の買い物や月に1度の全員の外出など、出来るだけ戸外へ出掛けることにより体力・歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充実感が得られるよう配慮している。本人の嗜好に応じて歌手の歌謡ショーや映画鑑賞の外出に同行支援している。	月一度の外出は、3名一組の少人数で、認知度のレベルも考慮して組み合わせし、楽しい食事会になるよう心がけている。全員の外出には6回行くことになるが、利用者への配慮から実行している。ラジオ体操の参加も、毎日のことで、生活のリズム作りに役立っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に大きな金銭管理は職員が行っているが、小銭を身近に所持することで安心感を持てるよう配慮している。個人の買い物の際は、自身でお金を払っていただき、社会性や遂行能力の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、家族・知人に電話する支援をしている。ご本人から申し出がない場合でも、遠方に家族がいる入居者には頃合を見て電話をする支援を心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしている。日差しはカーテンで調整している。	共用の空間は、快適な環境作りを心がけており、BGMに利用者お馴染みの曲を流し、季節の花を飾ったり、食事会等行事の写真を飾ったりして工夫をしている。日差しは、カーテンで調整している。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファで気の合う同士座ったり、テラスで日向ぼっこができるようにベンチを置くなど、好きな所でのんびり過ごせるよう配慮している。脚を伸ばせるコーナーを作ったり、手芸をするなどソファが多様な効用をはたしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具等を持ち込んでいただけるようお勧めし、なじみの雰囲気や自宅であるという実感と安心感を得られるよう配慮している。仏壇や思い出の写真等も飾りこれまでの生活の延長として暮らせる配慮をしている。	入居段階で、自宅から使い慣れた家具等を持ち込んで頂けるようお勧めし、馴染みある雰囲気を醸し、自宅であるという実感と安心感を得られるよう配慮している。仏壇やご家族の写真も飾り、これまでの生活の延長として暮らせるように配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・浴室に手すりを設置してあり、歩行空間には障害物がないよう配慮し、安全が保てるようにしてある。		

事業所名	グループホーム ふあいと青葉
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣町内からの入居者が多いが、のみならず全入居者が地域の一住民であることを職員一同常に念頭において業務にあたっている。ホーム前のゴミ集積所の清掃を入居者と共に行うことも実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として可能な限り、行事に参加したいと考えている。シルバークラブの厚意により毎朝近くの公園でラジオ体操参加を継続している。特にその送迎ボランティアの方々とは親密さが増してきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型の通所介護を始め、近隣地域の利用者・家族を支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施している運営推進会議での意見交換を有意義に考えている。今年よりシルバークラブ会長が委員に加わり、同世代者としての意見が貴重なものと考えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に近隣の奈良地域ケアプラザとは連絡を取り合い指導を受ける機会を作っている。今後も包括支援センターを通して行政と連携し、サービスの向上を図っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を学び、入居者の安全を重視しながら拘束をしない支援に努めている。構造上、玄関はオートロックであるが、庭の水撒き・洗濯干しなど、職員の見守りの上で自由に出入りでき、閉塞感がないよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で虐待防止について学ぶ機会を設け、職員の不用意な指示・言動が虐待に当たらないよう、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に保佐人を活用している方がいるので現実的な問題として、制度についての理解を深めていかねばならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書を通して詳しく説明を行い、疑問を残さず入居していただく努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は出来る限り利用者と個別にコミュニケーションをとるように努め、そこで得た意見を尊重している。ご家族とは面会時や電話等で意見・要望を遠慮なく表明していただける関係作りを心がけている。暮らしぶり・変化を正直に伝え、支援の工夫を報告して、安心感を持っていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員会議の中で、職員の意見・提案を検討し合い、働きやすい職場改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の状態変化に合わせ、本年8月よりC勤(10時～19時)を新たに設け、入居者へのサービス向上と職員の連携に有効な体制の実践を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては期間を定めて現場での研修や法人間での教育研修を行い、介護の質の向上を図る体制ができている。また隔月に一度法人主催の研修を実施し、介護技術の向上に努めている。更に他機関の研修にも積極的な受講を勧め、士気高揚に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会に属し、他ホームとの交換研修を実施している。交換研修では視野の拡大、自身の振り返りができ、有意義な機会となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者宅を訪問してお話を聴く機会を作っている。更にできる限りホームを見学していただき、安心感を得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者宅への訪問・ホームの見学・電話相談など納得がいくまで相談を受け容れる配慮をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状況を客観的・長期的に把握し、ご本人にとって最善の生活ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常業務で常に留意していることは、職員は介護するのではなく、入居者と共に生活する視点を保つこととしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を常に尊重した支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	遠方から入居された方もあり、以前のなじみの場への再訪は困難な場合もあるが、知人の訪問は積極的に歓迎している。なじみの方との電話交流も継続する支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ウマが合う・合わないの関係が見え隠れするが、折り合っでの共同生活の環境作りに職員が日々工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養型病院に入院し、退居した入居者がいるが時折職員が見舞うなど関係を継続した。その後死去されたが入居者と共に仏前にお参りするなど今も関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日々、できる限り個別にコミュニケーションをする努力をし、各人の意向を生活に反映させる工夫をしている。共同生活でのストレス解消を、各人に合う方法で解決する努力を続けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談で必要な生活歴等は把握している。入居後は職員と関係を深める中で更なる情報を得る努力をしている。職員との関係作りから得た情報は連絡ノートや申し送りで、情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで情報の共有化・ケアの統一に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者を深く観察し、家族の意向に沿った具体的・現実的な介護計画の作成を心がけている。職員会議での各職員の提案を吟味し、柔軟な介護計画となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録・連絡ノート・申し送り等で情報の共有に努め、介護計画への導入・実践に活かしている。些細な状態変化でも見逃さないよう職員の観察力強化を課題としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前の相談の段階から、行政や他事業所の利用を紹介しながら最善の支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のケアプラザ・地区センターの行事には地域住民の一員として参加し、入居者の社会性の維持を図っている。近隣の交番に、必要時に捜索など協力していただけるよう依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医師による週1回の往診、週に1度の看護師の訪問で入居者の医療面の支援が継続的にできている。主治医の専門外の急病の場合は、家族と連絡をとりながら、通院介助にあたっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は看護師が業務に当たり、入居者の健康管理にあっている。また法人内有料ホームに常駐している看護師は携帯電話を24時間携帯し、いつでも相談に応えられる体制で、入居者・介護職員共に安心出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を取り合い、病状に応じてホーム帰居の対応に心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、医療加算と終末期医療に関する説明・同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において、医師・ホーム・家族・ご本人の意思と方針の共有を図っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時の応急手当・初期対応についてはマニュアルを作成し、勉強会を実施している。法人の研修会でも実践訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの災害時の避難訓練を定期的を実施し、入居者の安全確保の方法を身につける努力をしている。地域住民との連携についても、運営推進会議等で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に年長者に対する言葉遣いをするよう努め、誘導が必要な場合にも指示的な言動を避けることを職員に徹底している。記録には個人情報配慮してイニシャルで記すことにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意向を優先させるのではなく、入居者自身の意思表示を気長に待つ支援に留意している。また、できる限り職員は個別の関わりの機会を作り率直な意思表示を引き出す努力をしている。個別に対応することで得られた情報を職員が共有化して、余暇活動等に役立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に留意し、各人のペースを尊重した暮らしに努めている。現在は各人の日課が自然に出来上がり、家庭的な雰囲気がかもし出されている。共同生活としての全体性と個人の自由さのバランスの取り方が課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用し、入居者の好みに合わせて整容している。髪染め希望者には職員が支援して定期的に染めたり、また日常的に化粧する入居者が現れ、生活意欲の向上が好ましいことと思われる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景が見られており、入居者はほぼ全員調理に参加、張り合いをもって見受けられる。男性入居者も自発的に配膳や片付けに参加している。平日の献立・食材は業者から取り寄せているが、土・日は入居者の好みに合わせ、ホームで献立を作り入居者と共に出しをされている。職員は入居者と共にも同じものを食べている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれの病状に応じ、食べる分量や糖分摂取を加減するなど栄養摂取に留意している。食事量・水分摂取量は食事毎に毎日記録し状態観察している。月に1度は体重測定をし、低栄養や脱水に陥らないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態に応じた口腔ケアを実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ・パットの使用による負担が最小になる工夫や、排泄パターンを見極め、むやみな声かけをしないよう工夫をしている。車椅子使用の入居者も立位のリハビリを兼ね、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便の確認をし、便秘がちな入居者には水分摂取や運動を促し、予防に努めている。また個々に応じて医師の指示のもと下剤を使用し、便秘解消に努めている。便秘がちな入居者にはセンナ茶をすすめ、効果がみられている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	おおむね1日おきのペースで体調に応じて入浴を実施している。季節に応じて入浴剤や菖蒲湯等、楽しい入浴を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの習慣や体調を尊重して安眠できるように努めている。日中は散歩・体操・家事活動で身体を動かすことで、夜間の安眠を促す努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方箋・説明書をファイルして全員が把握できるようにしてある。薬の変更の際にも理由等を連絡ノートに記入し、申し送りの際にも伝えて職員全員が把握・状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴を理解し、昔取った杵柄を活かし、役割や娯楽に取り入れる工夫をしている。家庭菜園・カラオケ・囲碁将棋・手芸等趣味活動が広がりつつある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に応じての散歩・食料品の買い物や月に1度の全員の外食など、出来るだけ戸外へ出掛けることにより体力・歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充実感が得られるよう配慮している。本人の嗜好に応じて歌手の歌謡ショーや映画鑑賞の外出に同行支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に大きな金銭管理は職員が行っているが、小銭を身近に所持することで安心感を持てるよう配慮している。個人の買い物の際は、自身でお金を払っていただき、社会性や遂行能力の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、家族・知人に電話する支援をしている。ご本人から申し出がない場合でも、遠方に家族がいる入居者には頃合を見て電話をする支援を心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしている。日差しはカーテンで調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファで気の合う同士座ったり、テラスで日向ぼっこができるようにベンチを置くなど、好きな所でのんびり過ごせるよう配慮している。脚を伸ばせるコーナーを作ったり、手芸をするなどソファが多様な効用をはたしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具等を持ち込んでいただけるようお勧めし、なじみの雰囲気や自宅であるという実感と安心感を得られるよう配慮している。仏壇や思い出の写真等も飾りこれまでの生活の延長として暮らせる配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・浴室に手すりを設置してあり、歩行空間には障害物がないよう配慮し、安全が保てるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 医療法人社団平平會
グループホーム
ふあいと青葉

作成日 平成22年9月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
3	38	食事作りの時刻が早まる傾向あり	夕食の調理開始を16：30とし、それまでは入居者と共に過ごすようにしたい	15：00のおやつ後の余暇活動を工夫する。個々の散歩等も取り入れる。	3ヶ月
1	40	むせ込みがみられる入居者への安全な食事支援	むせ込みの防止	個々に応じた食事形態の徹底。嚥下体操の実践。	6ヶ月
2	46	時折、夜間に起きる入居者あり	夜間、継続して安眠していただく	日中の活動を積極的に対応し、夜間への安眠につなぐ。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。